

Z会東大進学教室

早慶大世界史



1章 中国史 I

問題

【1】

解答

A 趙 B 蒙恬^{もうてん} C 冒頓单于 D 呉楚七国

(1) 刀銭 (2) (a) 陳勝・呉広の乱 (b) 項羽 (3) (a) 張騫 (b) 敦煌郡

解説

戦国時代から秦・漢の統一王朝と、匈奴を中心とした周辺異民族との関係についての問題である。文章の冒頭部分に難しい人名・地名を並べて威嚇しているが、落ち着いて文を読めれば、空欄Aを除いて基本的な問題である。

A 「武霊王」はヒントにならない。戦国の七雄の配置を考えれば、匈奴などの北方民族に対峙する国は、秦と燕を除けば魏・趙の2つに絞れるはずである。本番にこのような問題に遭遇した場合、この段階まで絞って2択のギャンブルをするしかない。正解すればラッキー。因みに燕の長城は匈奴ではなく東胡に対して建設されたものである。鮮卑族は東胡の末裔と考えられる。

B 前漢の武帝が匈奴討伐に派遣した衛青や霍去病と混同しないこと。蒙恬の活躍で匈奴から回復した内モンゴルのオルドス地方についても記述できるように。

C 冒頓单于（位前209～前174）は匈奴の全盛期を創出し、東胡を滅ぼし、丁零を征服し、月氏・烏孫を圧迫し、前漢の高祖（劉邦）を白登山の戦い（前200）で大敗させ、和議を結ばせた。前漢はまだ国内の中央集権が達成されていなかったため国内問題を優先し、匈奴に対しては屈辱的な和親策を採らざるを得なかった。

D 前漢は建国当初、中央集権体制である郡県制ではなく、郡県制と封建制を折衷した郡国制を採っていた。その後、中央集権制への移行をめざす過程で鼂錯^{ちようそ}による諸侯抑圧が原因で呉・楚・趙・膠西・膠東・菑川・済南の7国の反乱（呉楚七国の乱）を招いたが、景帝（位前157～前141）が平定し、次の武帝（位前141～前87）の時代には事実上の中央集権体制が確立された。

(1) 青銅貨幣には刀銭（斉・燕）、布銭（韓・魏・趙）、蟻鼻銭（楚）、円（環）銭（斉・秦・魏）がある。曖昧だった人も多いであろうが、これを機会に正確に青銅貨幣を諸侯ごとにも押さえておくこと。複数の貨幣を使っていた国の出題はほとんどないので、楚の蟻鼻銭、燕の刀銭、秦の円（環）銭は絶対重要。

(2) (a) 始皇帝が亡くなり、2代皇帝が即位すると重税・徴発・厳しい刑罰に苦しむ民衆の反乱が相次いだ。とくに陳勝・呉広の乱（前209～前208）は中国初の本格的な農民反乱であった。“王侯将相いずくんぞ種あらんや”という陳勝の言葉が、戦国時代の実力主義の風潮を懐かしむ意味であることも押さえておくこと。

(b) 前漢の建国者となる劉邦は江蘇省沛^{はい}の農民出身。いち早く関中（渭水盆地、陝西省中部）

に入り、秦を滅ぼし、漢中（黄河支流の漢水上流の盆地，陝西省南部）の王となるが、後から来た楚の項羽との抗争に何度も敗れ、その支配下に入った。しかし最終的に、垓下の戦い（前 202）で項羽を破り（「四面楚歌」の故事）、帝位に即いた。

- (3) (a) 匈奴のような騎馬民族への効果的な攻撃は挾撃だった。武帝が張騫を大月氏・烏孫へ派遣（前 139）したことで西域事情が判明し、のちの絹の道交易の開始の契機となった。また、張騫がもたらした情報から李広利は大宛（フェルガナ）遠征を行い、汗血馬を獲得した。
- (b) 敦煌郡・武威郡・酒泉郡・張掖郡は地図で確認しておくこと。ただし敦煌郡以外を記述させる出題はほとんどない。武帝が派遣した衛青・霍去病の遠征（前 129 以降）で河西回廊（甘粛省の黄河以西のゴビ砂漠と南山山脈に挟まれた帯状のオアシス地帯）に敦煌郡・武威郡・酒泉郡・張掖郡の 4 郡を設置した。現在の甘粛省の最西端にある敦煌郡は 4～14 世紀に造営された石窟寺院である莫高窟（千仏洞）でも有名。19 世紀末～20 世紀初頭にスタイン（英）・ペリオ（仏）・大谷探検隊（日）らにより世界に紹介された。武帝は匈奴と衛氏朝鮮による逆挾撃を恐れ衛氏朝鮮を滅ぼし、楽浪郡・真番郡・臨屯郡・玄菟郡の 4 郡を設置しているが、やはり記述では楽浪郡以外は問われないと考えてよい。但し、必ず資料集の地図で確認しておくこと。

【2】

解答

- ① d ② b ③ a ④ d ⑤ b ⑥ c ⑦ d ⑧ c
⑨ d ⑩ b

解説

黄河流域の都市国家（邑）の連合体である伝説上の夏から後漢末までの基本的な問題である。早慶クラスを狙う受験生であれば全問正解が望ましい。

- ① 黄河流域では集落が大きくなり中・下流域に邑（村落→都市国家）が形成された。伝説上の三皇五帝の時代である。一般に、三皇は伏羲（漁撈を發明）・神農（農耕を發明）・燧人（火食を發明）、五帝は黄帝・顓頊・帝嚳・堯・舜とされる。舜から禪譲された禹を建国者として、桀王までの 17 代約 450 年続いた伝説の夏王朝（前 21～前 16 世紀頃）が始まる。設問に「確認されているのは殷」とあるから間違いようもない。
- ② 西周・東周とはそれぞれの都の地理的關係からの呼称である。西周（前 11 世紀～前 770）の都は鎬京（現在の西安付近）。黄河支流の渭水盆地（現在の陝西省）より発展し、武王が殷（紂王）を滅ぼし都市国家（邑）連合の盟主となった。しかし幽王の時に犬戎の侵入で鎬京を失い、平王が洛邑（現在の洛陽）に遷都を実施し、以降東周（前 770～前 256）が成立した。c の臨淄は斉の都、d の咸陽は秦の孝公（位前 361～前 338）が法家の商鞅の献策で遷都した都。
- ③ 常識。以後、事実上の春秋戦国時代（前 770～前 221）が東周の存続期間にほぼ等しい。
- ④ 春秋の五覇は“尊王攘夷”を掲げて諸国の同盟を画策し、中原（黄河の中流域、洛陽を中心とした地域）の覇を争った。五覇に含まれる人物については諸説あるが、代表的な者が桓公（斉）、文公（晋）、莊王（楚）、夫差（呉）、勾踐（越）、穆公（秦）、襄公（宋）、闔閭（呉）

らであり、桓公・文公は記述問題でも頻出。呉と越は「呉越同舟」の語にも示される通り陰悪な関係であった。呉王夫差と越王勾践の対立は「臥薪嘗胆」の故事を生んだ。

- ⑤ 北宋の司馬光は戦国から五代までの通史を『資治通鑑』に執筆する際、前 403 年に晋が韓・魏・趙に分裂したことを下剋上の象徴として、戦国時代の始まりとした。
- ⑥ きちんと教科書や資料集を見ているかが問われている。秦の始皇帝の半両銭も前漢の武帝の五銖銭も、ともに円形の貨幣である。
- ⑦ 常識問題。西域都護（都護府は亀茲に置かれた）の班超はカスピ海以東の 50 余のオアシス国家（ロブ＝ノル湖畔の楼蘭，トルファン盆地の高昌，宝玉の産地である于闐など）を支配し，部下の甘英を大秦国（ローマとされる）へ派遣した（実際に甘英が到達したのは条支国＝シリアまで）。このことは大秦王安敦の使節が日南郡へ派遣（166）される契機となったとされている。また和帝の時代には，宦官の蔡倫が製紙法を改良して献上している。因みに班超の兄は歴史家の班固で、『漢書』の作者。『漢書』は班固の死後，妹の班昭が補筆して完成した。
- ⑧ 中国の代表的農民（民衆）反乱は以下の通り。

	反乱名(年代)
秦	陳勝・呉広の乱（前 209～前 208）
新	赤眉の乱（後 18～27）
後漢	黄巾の乱（184）
唐	黄巢の乱（875～84）
北宋	均産一揆（四川の反乱，993～95）
	方臘の乱（1120～22）…宋江（『水滸伝』の主人公）が参加したとされる反乱
南宋	均産一揆（湖南の反乱，1130～35）
元	紅巾の乱（白蓮教徒の乱，1351～66）
明	鄧茂七の乱（1448～49）
	李自成の乱（1636～44）
清	白蓮教徒の乱（1796～1804）
	天理教徒の乱（1813）
	平英団事件（1841）
	太平天国の乱（1851～64）
	捻軍の乱（1853 頃～68）
	義和団事件（北清事変；1900～01）

- ⑨ 前漢の哀帝は限田法を發布（前 7）し，豪族による大土地所有の制限と小農民保護を企図したが，豪族出身の官僚に阻まれて未実施に終わった。a の占田法，b の課田法はともに西晋の武帝が呉を滅ぼして中国を統一した 280 年に実施。c の科田法は朝鮮王朝（李氏朝鮮）の土地制度で，貴族私有地を国有化し，官僚の地位に応じて土地を支給し徴税権を分与したもの。朝鮮の土地制度には他に，高麗の田柴料制（地位に応じて耕地と柴の採取地を支給する制度）もある。混同しないように。
- ⑩ 常識。中国の官吏任用制は前漢の武帝が定めた，地方長官が官吏を推挙する郷挙里選。魏の文帝が定めた九品中正と同じく，弊害として豪族の子弟の政界進出が促進された。とくに九品中正は“上品に寒門なく，下品に勢族なし”といわれた。隋の文帝は貴族の官職独占を

阻止するために中正官を廃止して 598 年に科挙を定めた。唐代には秀才（時事問題）・明経（五経）・進士（文学）などの科に分けられたが、宋からは進士に一本化された。しかし科挙も万能ではなく、例えば唐では貴族が蔭位の制で父祖の官位に応じて任官が優遇されるなど、その問題点も時代に伴い表出した。

【3】

解答

設問 1 ① 設問 2 ② 設問 3 ④ 設問 4 ③ 設問 5 ① 設問 6 ②
設問 7 ④

解説

後漢末から魏晉南北朝に関する正誤問題を主とする。設問 6 の年代問題も含めて、早大にしては基本的な問題なので、早大志望者は全問正解が望ましい。正解以外の解説もよく読んで曖昧な知識をチェックしてもらいたい。

設問 1 正解は①。和帝（位 88～105）の治世下で西域都護（都護府は亀茲）の班超がカスピ海以東の 50 余のオアシス国家を支配し、部下甘英を大秦国（ローマ）へ派遣した（実際は条支国＝シリアまでで引き返したと『後漢書』西域伝に記述あり）。宦官の蔡倫が製紙法を改良し、献上したのも和帝の時代である。

② 張騫は前漢の武帝（位前 141～前 87）の時代に匈奴の挾撃をめざし、大月氏・烏孫へ派遣された。挾撃には失敗するが西域事情が判明し、絹の道交易が整備された。張騫の報告から李広利が汗血馬を得るために大宛（フェルガナ）へ遠征し、衛青・霍去病は汗血馬を用いて匈奴の討伐に成功した。

③ 班固は班超の兄で『漢書』を紀伝体で著した。妹の班昭が『漢書』を補修して完成した。

④ 衛満は衛氏朝鮮（前 190 頃～前 108）の建国者。衛満は燕から朝鮮北部に亡命し箕子朝鮮の箕子の信任を受けるが、国を奪い、王險城（現在の平壤）を都に建国した。

設問 2 正解は②。黄巾の乱は張角が率いる太平道の信徒中心の農民反乱で、この反乱を契機に豪族が割拠したため実質的に後漢は滅亡し、三国時代となる。この頃、張陵が五斗米道（天師道）を創始した。のちに寇謙之が開く道教の別名は新天師道である。

① 「25 年」は後漢の建国の年。

③ 「220 年」は曹丕が後漢の献帝から禅譲され、魏を建国した年。

④ 「290 年」は西晋で八王の乱の始まった年。

設問 3 誤りは④。隋の都は大興城。西周は幽王の時に犬戎の侵入により都の鎬京を失い、洛邑に遷都して東周が成立した。洛邑は、西周の建国者武王の弟である周公旦が東方統治のために建設したのが起源。

設問 4 誤りは③。六朝文化では戦乱による社会不安によって官学である儒学が実際の政治に役に立たないとされ、儒学不振という環境の下で老荘思想の影響による清談が流行した。

① 六朝とは現在の南京である建業を都とした呉、建康を都とした東晋・宋・齊・梁・陳。

② 蜀の建国者劉備が漢の王族を自称したことから蜀漢と呼ばれたことを知っていて誤りとした人もいるかもしれないが、魏の曹丕が後漢の献帝から禅譲され即位したことから漢を継

ぐ正統とする考えは正しい。

④ 竹林の七賢は阮籍・嵇康・山濤・王戎・劉伶・阮咸・向秀。せめて阮籍は書けるようにしておこう。

設問5 誤りは①。北魏の建国者は道武帝（拓跋珪；位 386～409）。

②・③ 太武帝（位 423～52）は 439 年に華北を統一。道教を国教化し、寇謙之に動かされ仏教を弾圧した。“三武一宗の法難”とは太武帝（北魏）・武帝（北周）・武宗（唐；会昌の廃仏）・世宗（後周）による仏教弾圧事件。

④ 魏晋南北朝時代の文化（六朝文化）も北朝系は実学が盛んであった。代表的なものとしては、『水経注』…地理書／著者：酈道元（北魏）、『齊民要術』…農学書／著者：賈思勰（北魏）、『傷寒論』…医学書／張仲景（後漢）の著作を王叔和（西晋）が整理、などがある。

設問6 正解は②。ヴァルダナ朝はハルシャ＝ヴァルダナが 606 年に建国した。

① 魏の存続期間は 220～65 年。239 年に朝貢使節を派遣した邪馬台国の卑弥呼に対して、魏の皇帝は「親魏倭王」の称号を贈った。世界史受験者でも邪馬台国・卑弥呼くらいは書けるように。

③ ササン朝ペルシアのアルダシール 1 世が 3 世紀前半にパルティアを滅ぼして建国した。

④ テオドシウス帝の死後、395 年にローマ帝国は東西に分裂する。西ローマ帝国は、ホノリウス（位 395～423）からロムルス＝アウグストゥルス（位 475～476）がゲルマン傭兵隊長オドアケルに滅ぼされるまで、東ローマ帝国はアルカディウス（位 395～408）からコンスタンティノス 11 世（位 1449～53）がオスマン帝国のメフメト 2 世に滅ぼされるまで続いた。

設問7 誤りは④。後晋（936～46）の建国者の高祖（石敬瑭）は契丹の援助を受け、後唐を倒して建国、燕雲十六州を契丹に割譲した。後梁の建国者は朱全忠。

① 青銅貨幣は刀銭が齊・燕などで、布銭は韓・魏・趙などで、蟻鼻銭は楚で、圜（環）銭は齊・秦・魏などで使用された。

② 戦国の七雄は春秋の五覇と違い異説はないので、地理的にも必ず確認しておくこと。

③ 後唐の都は洛陽、他の 4 王朝は開封が都。開封は黄河・通済渠・永済渠の交点として発展した。後唐・後晋・後漢の建国者は突厥系である。

【4】

解答

a 22 b 36 c 21 d 30 e 27 f 13 g 33 h 15
(ア) 35 (イ) 31 (ウ) 16 (エ) 24

解説

江南の発達を中心に、五胡十六国時代から宋にかけての中国の歴史をまとめた問題。江南の開発は入試問題としてポピュラーな題材なので、この問題文からさらに範囲を広げ、東晋の建国～明清代についてもまとめておこう。

- a 誤りやすいのは、晋（西晋）を建国した司馬炎であろう。東晋を建国したのは司馬睿である。
- b 現在の南京の歴史的名称の変化には十分注意しておくこと。呉の都となった建業は、東晋の成立以後建康と改名し、南朝の都として繁栄した。明の永楽帝の時代に都が北京に遷った（1421）後は南京と呼ばれた。清代末期に起こった太平天国の乱の時には、1853年から64年まで太平天国がこの地を占領し、天京と称して都とした。
- c 北魏が鮮卑の出自であることはよく問われる。「拓跋氏」もきちんと漢字で書けるようにしておこう。
- d 「国家的土地制度」がキーポイント。485年に孝文帝が実施した均田制は、その後も少しずつ形を変えて継承されてゆき、唐で律令体制の完成を迎えることになる。曹操の実施した屯田制と間違えないこと。
- e・f 黄河から北方の涿郡に至る大運河は永濟渠で、黄河と淮河を結ぶ大運河は通濟渠である。この運河は隋の煬帝の時代に開かれた。
- g 両税法を献策した宰相の名は楊炎であるが、語群の中では隋の楊堅（文帝）と間違えやすいので要注意。
- h 租庸調制→両税法（780）→一条鞭法（16世紀後半）→地丁銀制（1717）と、中国の歴代の税制の変遷については、その社会的背景・内容・意義の3点について、しっかりと整理しておくこと。
- (ア) 五胡十六国の国々の一つ一つの興亡について、受験世界史で問われることはまずないが、この問題のように、「～族が建国した国家は何か」という問われ方はしばしば見られる。注目しておこう。
- (イ) 頻出用語。書名の『文選』ともどもしっかりチェックしておこう。
- (ウ) 府兵制の起源もよく問われる。府兵制＝西魏と暗記しておこう。
- (エ) 一種のひっかけ問題。さっと問題文を読んだだけでは19の黄巢を選んでしまうところだが、問題文には「最初の指導者」となっているので、24の王仙芝が正解となる。

【5】

解答

問1 (1) (a) (2) (a) (3) (d) (4) (c)

問2 ア (c) イ (d) ウ (d) エ (a) オ (b)

解説

唐の対外政策に関する問題。基本事項の正誤問題を落とした人は、危機感を持って復習すること。

問1 (1) 6都護府は下記の通り。(a)の西域都護府は後漢の班超が亀茲に設置したものが有名であるが、前漢末期の前59年に設置されたのが起源。

都護府名	統治域	設置年→移転年
安東都護府	朝鮮, 南満州	668年平壤に設置, 76年に遼陽に移す
単于都護府	内モンゴル	650年
安北都護府	外モンゴル	647年に燕然都護府が置かれ, 63年に瀚海, 69年に安北と改称
北庭都護府	ジュンガリア	702年
安西都護府	西域	640年高昌を滅ぼして設置→648年に亀茲に移る
安南都護府	南海諸国	622年に交州大総管府が置かれ, 79年に安南都護府と改称

(2) 間違いは(a)。羈縻政策は周辺異民族に対する懐柔策であり、服属諸民族の首長を唐の役人に任じ、都護の監督下の実質的自治を認めるもの。中国の特徴的な対外政策として、冊封体制についても説明できるようにしておこう。冊封体制とは、中国国内の君臣関係を諸外国の首長との関係にも当てはめ、中国を中心とした国際的君臣関係を結んだもので、中華思想を背景とするもの。周辺諸国は唐に朝貢し、唐を中心に国際秩序を形成した。

(3) 間違いは(d)。律は刑法、令は行政法・民法、格は追加規定、式は施行細則である。

(4) 間違いは(c)。李元昊はチベット系タングート族の西夏の建国者。渤海の建国者は高句麗滅亡後、遺民を率いた大祚榮である。

(d) 遼の建国者である耶律阿保機(位916～26)は、遼河支流に遊牧生活をしていたモンゴル系契丹(キタイ)族出身。唐の衰退に乗じて契丹諸民族を統一し、遼を建国した。以後渤海(698～926)を滅ぼし、満州を領有した。936年には石敬瑭の後晋の建国を助け、見返りに燕雲十六州を獲得。946年には後晋を滅ぼし、聖宗(位982～1031)が南進して北宋の真宗と澶淵の盟(1004)を結んだ。

問2 ア チベットとあるからソンツェン＝ガンボが初めてチベットを統一し、建国した吐蕃である。中国・インドから先進文化を吸収しインド系文字を基本にチベット文字を作成した。唐とはしばしば対立し、安史の乱の鎮圧直後には吐蕃軍が長安に侵入して略奪を行った。しかし最終的には唐と和解し、都のラサと長安には唐蕃会盟碑が建立された(823)。

(a) 西夏(1038～1227)はタングート族が建設した国家。于闐(ホータン)は漢代から唐代にかけて東西貿易の中継地として栄えたオアシス都市国家。

(d) 青海はチベット高原北東部から中国とチベットの間位置する青海地方。吐谷渾(4～7世紀)がオアシスの道を掌握し、中継貿易で繁栄した。635年に唐に服属し、63年吐蕃により滅亡した。

イ 高校世界史レベルでは、雲南には2つの国しか登場しないと考えるとよい。南詔国（?～902）は雲南地方に興ったチベット＝ビルマ系の国で、仏教が栄えた。唐より雲南王に封じられるが唐から離反し、その後諸勢力に分裂して滅亡した。大理国（937～1254）は南詔国の滅亡後、白蛮系豪族が建国した国で、仏教が栄えたが、南宋包围をめざすフビライの率いるモンゴル軍の攻撃で滅亡した。

ウ ヲトナム中部であるからチャンパー（2世紀末～17世紀）。中国名は林邑→環王（8世紀）→占城（9世紀後半以降）。ヴェトナムは秦以来中国の統一王朝の支配を受けたが、後漢が黄巾の乱（184）で弱体化したのに乗じて、チャム人が独立した。ヴェトナム中南部を支配、海上貿易で繁栄。扶南と抗争を繰り返した。

(a) アンコール朝は9～15世紀にカンボジアで栄えた。

(b) 扶南は1世紀頃～7世紀半ばにメコン川下流域（カンボジア～ヴェトナム南部）を支配した。

(c) 大越国はヴェトナム北部の李朝（1009～1225）・陳朝（1225～1400）・黎朝（1428～1527, 1532～1789）・西山朝（1778～1802）の4王朝。阮朝（1802～1945）だけは越南国の国号を用いた。

エ・オ タラス河畔の戦い（751）は高仙芝率いる唐軍がアッバース朝軍に敗れた戦いである。唐は玄宗（位712～56）、アッバース朝は初代カリフのアブー＝アルアッバース（位750～54）治世下。この戦いを経て製紙法がイスラーム世界へ伝わり、また中央アジアがイスラームの支配下へ入ることとなった。なお、高仙芝は黄巢の乱（875～84）で黄巢とともに指導した山東の塩の密売商人である王仙芝と紛らわしいので要注意。

【6】

解答

設問1 ④ 設問2 ② 設問3 ④ 設問4 ① 設問5 ① 設問6 ④
設問7 ② 設問8 ① 設問9 ③

解説

隋唐史に関する問題である。内政面だけでなく、周辺諸国の動向についてもしっかりと確認しておこう。

設問1 「湖広熟すれば天下足る」は、明代に長江中流域の米の生産が下流域を上回ったことを表す言葉。宋代に長江下流域における米の生産が中国農業の中心となったことを示すのは「蘇湖（江浙）熟すれば天下足る」である。

設問2 ① 突厥が東西分裂したのは6世紀末であり、太宗の治世（626～49）より前である。東突厥は630年に一旦唐に滅ぼされ、再興したが744年にウイグルに滅ぼされた。西突厥は内紛で分裂し、7世紀末頃唐に滅ぼされた。

③ 百済・高句麗を滅ぼし、西突厥・ヴェトナムを攻撃して唐の最大領域を実現したのは、第3代皇帝の高宗である。

④ アッバース朝とのタラス河畔の戦いは751年であり、第6代皇帝玄宗の時代である。

設問3 唐代において、六部は尚書省に属した。吏部・戸部・礼部・兵部・刑部・工部から成

り、中央行政の諸業務を担った。

設問4 「長恨歌」は中唐の詩人・官僚である白居易の作品である。李白は盛唐の詩人で、自由奔放な詩風を特徴とし、「詩仙」と称された。

設問5 唐代の均田制では、農民に口分田と永業田が支給されたが、このうち口分田は世襲が許されず、永業田は世襲が認められた。

設問6 地丁銀制は清代に一条鞭法に代わって実施された税制で、土地税の中に人頭税を繰り込み、一括して銀納させた。これにより、人頭税が廃止された。

設問7 王建は10世紀前半に新羅を滅ぼして高麗を建国し、都を開城に置いた。唐や宋の文物・制度を受容し、仏教文化が栄えた。

設問8 ② 玄奘が訪れたのはヴァルダナ朝時代のインドである。ハルシャ＝ヴァルダナ王の厚遇を受けてナーランダー僧院で学んだ。旅行記『大唐西域記』は、帰国後の646年に完成した。

③ 義浄がインドからの帰途に滞在したのは、スマトラ島南部のシュリーヴィジャヤである。

④ 仏図澄は華北で仏教を布教した西域出身の僧であり、4世紀初頭に洛陽を訪れて後趙で重用された。

設問9 清真教はイスラーム教の中国名である。

2章 中国史Ⅱ

問題

【1】

解答

問1 C 問2 B 問3 A 問4 C 問5 D 問6 B 問7 D
問8 D 問9 D

解説

基本問題。問6・問9がやや差のつく問題である。地図問題・文化史問題・年代問題の正答率は低くなる傾向にあるので、早くから準備をしておきたい。

問1 誤りはC。武帝は河西回廊（甘粛省の黄河以西の、ゴビ砂漠と南山山脈に挟まれた帯状のオアシス地帯）に敦煌郡・武威郡・酒泉郡・張掖郡の4郡を設置した。西域都護府が設置されるのは、前漢末期の前59年のこと。

A 匈奴との挟撃を恐れて衛氏朝鮮を滅ぼし、楽浪郡・真番郡・臨屯郡・玄菟郡の4郡を設置したが、南には韓族の勢力があり、漢の勢力が朝鮮全土に及んだわけではなかった。

D 張騫は烏孫にも派遣されている。

問2 外征による窮乏から、武帝は桑弘羊の献策で財政再建を実施した。内容は均輸法（特産物を強制貢納させ不足地に転売、物価を調整・平均させ同時に利益）、平準法（物資を貯蔵し、物価が上がると売り出し、物価が下がると余剰物資を買い入れ、物価の抑制・安定をはかる）、塩・鉄・酒の専売制、五銖錢（銅錢）の制定、売位・売官・重税である。五銖錢は隋代まで使用された。

問3・問4 五胡十六国時代（304～439）は13国が五胡の、3国は漢人の国。北方（モンゴル）系は匈奴・羯・鮮卑、チベット系は氐・羌。鮮卑の拓跋珪が386年に都を平城に置いて北魏を建国し、439年に3代太武帝が華北を統一した。

問5 D 顔真卿は盛唐の書家（709～86頃）。安史の乱で義勇兵を率いて抗戦したことは有名。王羲之以来の典雅な書風を一新して、力強い楷書・草書に新しい書風を開いた。

A 東晋の顧愷之（344頃～405頃）は“画聖”と称される。過去の模範的な宮中の婦人の徳行を挙げて戒めとした『女史箴』の内容を絵画化した『女史箴図』が代表作。

B 昭明太子（蕭統；501～31）は梁の武帝の長子。周～梁の詩文を集大成した『文選』を編纂した。『文選』は日本の平安貴族文学に大きな影響を与えた。

C 謝靈運は淝水の戦いで活躍した謝玄の孫。南朝宋代に、江南の美しい山水を詠んだ山水詩人として有名である。

問6 誤りはB。義浄（635～713）は唐の僧侶。ヴァルダナ朝滅亡後のインドを往路・復路ともに海路で訪問し、則天武后の時代に帰国した。ナーランダー僧院で修行後、スマトラ島のシュリーヴィジャヤ（室利仏逝）で旅行記『南海寄帰内法伝』を記した。他に『大唐西域求法高僧伝』を著す。東晋の僧侶は法顕（337頃～422頃）である。グプタ朝最盛期のイン

ドを訪問し（行きは陸路，帰りは海路），著作『仏国記』でチャンドラグプタ 2 世を超日王と記した。

A 北魏の寇謙之（363～448）は道教の教義を体系化し，新天師道として大成した。太武帝が道教を国教化して仏教弾圧を行い，“三武一宗の法難”の始まりとなった。

C 仏図澄（？～348）は亀茲の僧で，310 年洛陽に渡来した。弟子の道安その他の約 1 万名の弟子たちが，中国各地に約 900 の寺院を建立し，仏教の民間への浸透に大きな役割を果たした。道安の弟子が，中国の浄土宗の祖とされる慧遠である。鳩摩羅什（344～413）も亀茲の僧であり，涼州（前秦）・長安（後秦）に迎えられて多数の大乗經典の翻訳を行った。

D 敦煌では 4～14 世紀に建造された莫高窟（千仏洞）が有名。19 世紀末～20 世紀初頭に多数の敦煌文書が持ち出され，世界に紹介された。雲崗は平城（現在の山西省大同）郊外に位置する。太武帝の仏教弾圧後に建設が開始され，ガンダーラ・グプタ美術の様式を色濃く残す。竜門は洛陽郊外に位置する。孝文帝の洛陽遷都～唐の玄宗期にかけて（494～756）造営され，雲崗に比べて様式の中国化が著しい。

問 7 正しいのは D。

A 後梁（907～23）の建国者朱全忠と，後周（951～60）の建国者の郭威は漢民族。後唐の建国者の李存勗，後晋の建国者の石敬瑭，後漢の建国者の劉知遠は突厥系。

B 唐を滅ぼしたのは朱全忠。朱元璋は明の建国者。

C 後唐の都だけは洛陽。後梁・後晋・後漢・後周の都は開封である。

問 8 北宋の徽宗（位 1100～25）は蔡京らの勧めで金と同盟し，挾撃で遼を滅ぼした（1125）が，金が北宋の違約を責め対立した。金は華北の領有をめざして南進し，開封を占領し（1126），上皇（徽宗）・皇帝（欽宗；位 1125～27）・重臣らを黒竜江方面へ連れ去った（1127）。

問 9 正しいのは D，欧陽脩は他に『新五代史（五代史記）』も編纂した。

A 唐宋八大家は唐代の韓愈・柳宗元，宋代の欧陽脩・曾鞏・蘇洵（父）・蘇軾（蘇東坡；『赤壁の賦』）・蘇轍・王安石の 8 名。このうち欧陽脩・曾鞏・蘇軾・蘇轍は王安石の新法に反対した政治家としても有名。

B 朱熹は南宋の儒学者。

C 司馬遷の『史記』や班固の『漢書』以来，中国の歴史書は紀伝体で書かれることが主流であったが，戦国から五代までの通史を司馬光は編年体で著した。その他に編年体で書かれたものには『史記』や『漢書』以前の『春秋』がある。

【2】

解答

問 A 3 問 B 5 問 C 4 問 D 1 問 E 4 問 F 2 問 G 4

問 H 3 問 I 5 問 J 1

解説

正誤判定にはやや難問もあるが消去法から答を導ける。問 H は年代の問題だが，基本的。

問 A 誤りは 3。オゴタイ＝ハン（位 1229～41）の命で遠征したのはチンギス＝ハンの長男ジュチの息子バトゥ。ロシア・ウクライナを征服しキエフ公国を滅ぼしたほか，ポーラン

ド・ハンガリーに侵入し、ワールシュタットの戦い（1241）でポーランド・ドイツの連合軍を撃破したが、オゴタイ＝ハンの死で撤退し、その後キプチャク＝ハン国を建国した（1243）。フラグは兄である第4代モンケ＝ハン（位 1251～59）の命でアッパース朝を滅ぼして（1258）イル＝ハン国を建国した。そのためオゴタイ＝ハンの命ではない。フラグはアイン＝ジャールートとの戦いでマムルーク朝のバイバルス（位 1260～77）に敗れた。世界史で系図が取り上げられることは珍しいことだが、チンギス＝ハンの家系図はよく出題される。要点に掲載されている系図を今一度確認しておこう。

問B 正しいのは5。チンギス＝ハンは遠征でトルコ系のナイマン・ホラズム、西夏を滅ぼし、南ロシアはジュチ（長男）、東西トルキスタン（旧西遼）はチャガタイ（二男）、西北モンゴル（旧ナイマン）はオゴタイ（三男）に任せた。

1～4 キエフ公国はバトゥの遠征で滅んだ。オゴタイ＝ハン国はハイドゥの乱が原因でチャガタイ＝ハン国に吸収された。チャガタイ＝ハン国は14世紀に分裂し、西チャガタイ＝ハン国からティムールが台頭する。イル＝ハン国もティムールに滅ぼされた。キプチャク＝ハン国はモスクワ大公国の独立後に崩壊した。オゴタイ＝ハン国以外の3ハン国はイスラーム教を国教化したことに共通点がある。

国名（年代）	支配地（首都）	滅亡	備考
オゴタイ＝ハン国 （1225頃～1310）	西モンゴリア （エミール）	ハイドゥの乱後衰退 →チャガタイ＝ハン 国に併合	国としては存在しなかったとする説が有力
チャガタイ＝ハン国 （1227～14世紀後半）	中央アジア （アルマリク）	14世紀中頃に東西分 裂	西チャガタイ＝ハン国から ティムールが出現 14世紀にイスラーム化
キプチャク＝ハン国 （1243～1502）	南ロシア （サライ）	モスクワ大公国の独 立後に崩壊	ロシアへの影響 ウズベク＝ハン（位 1313～ 40）の時代にイスラーム化
イル＝ハン国 （1258～1353）	西アジア （タブリーズ）	ティムール朝の侵攻	東西交通の要衝 ペルシア文化の復興 ガザン＝ハン（位 1295～ 1304）の時代にイスラーム化 宰相ラシード＝アッディーン は歴史書『集史』を記した

問C 誤りは4。重要な役職の定員を偶数とし、漢民族と同数任命する満漢併用制を採用したのは清代のことである。元は中央・地方でモンゴル人第一主義を採り、その長官はモンゴル人が独占した。色目人はウイグル、西遼（カラ＝キタイ）などの西域人で、次官・補佐官級で経済を担当した。被支配者階級の漢人は旧金朝支配下の華北の漢人・女真人・契丹人などで下級官吏となり、南人は南宋支配下の漢人で、役職には就けなかった。地方の行中書省（行省）の長官をダルガチと呼ぶ。加えて、元朝では地方行政官庁の監督官もダルガチといった。

1 モンゴル帝国の都はオゴタイ＝ハンの時代にカラコルム（和林），その後上都を経て1264年にフビライ＝ハンが大都に移した。上都はマルコ＝ポーロがフビライに初めて出会った地でもある。

5 パスバ文字を作成したパスバはラマ教の僧侶。

問D 正しいのは1。

2 主戦派の將軍岳飛と和平派の宰相秦檜が抗争し，和平派が勝利すると宋と金の間に和約が結ばれ，淮水（淮河）を両国の国境とし，南宋は金に臣下の礼をとり，多額の銀・絹（歳貢）を金に贈った。金の臣下となることは，漢民族にとって屈辱的なことであった。

3 琉球は南宋ではなく，14世紀後半に明に臣礼をとり，15世紀初めに中山王尚氏が統一した。

4 商工業の発達に伴って大量の銅銭が鑄造され国外に流出し，日宋貿易では主流となったことは事実であるが，東アジアの国際通貨となると疑問である。

5 朱子学を大成した朱熹の原著は『四書集注』である。『四書大全』は明の永楽帝が編纂させた。

問E 不適当なのは4。ラシード＝アッディーン（ラシード＝ウッディーン；1247頃～1318）はイル＝ハン国に仕え，ガザン＝ハン（位1295～1304）に抜擢されたイラン人宰相。モンゴルの統治機構をイラン社会に適応させることに尽力した。著書『集史』はペルシア文学史上の傑作とされ，特に『蒙古集史』は，初期モンゴル史に関する重要資料とされる。

2 『元朝秘史』はチンギス＝ハン～オゴタイ＝ハンの伝説・史実をモンゴル人が自らの言葉で記した最古の史書。当初ウイグル文字あるいはパスバ文字で書かれたものが明代初期に漢字音訳され，各単語について中国語訳が付けられた。

3 ワールシュタットの戦いの後，バトゥの西征に驚いた教皇インノケンティウス4世によって，布教と実情視察のためにプラノ＝カルピニがカラコルムへ派遣された。

問F 該当するのは2。問C参照。

1 辮髪（べんぱつ）の強制は清朝の治世下で行われた。

3 モンゴル人・色目人は武器を携帯することを認められたが，漢人・南人は武器の携帯を認められなかった。

4 色目人は諸色目人（諸種族に属する人）の略で，主に中央アジア・西アジア出身の諸民族であってイラン系とは限定されない。

5 南人は1279年の崖山の戦いで元に滅ぼされた南宋支配下の漢人であって，地域は関係ない。

問G 宋の王族である趙孟頫（1254～1322）は元に仕えた書家・画家。

1 呉鎮・黄公望・王蒙・倪瓚びいざんは元末四大家と呼ばれ，李公麟の影響を受けて文人画を復興した。

2 王重陽（1113～70）は金治下の華北で全真教を創始した。儒・仏・道の調和を説く道教の革新運動を行い，禅宗の影響で修行を重視した。江南の漢民族たちは本来の道教を正一教として区別した。

3 耶律大石は，金と北宋の挾撃によって遼が滅びる直前（1124），中央アジアへ進出した。トルコ系のカラ＝ハン朝（10世紀半ば～12世紀半ば）を滅ぼし，西遼（カラ＝キタイ；

1132～1211)を建国した。

5 王建は高麗(918～1392)の建国者。935年に新羅を滅ぼし、諸勢力を征服して36年に半島を統一した。

問H 「タタールのくびき」とは、モンゴル人のキプチャク＝ハン国(1243～1502)でロシアが厳しい支配下に置かれたことを意味するから、それ以前に活躍したのは3のウラディミール1世(位980頃～1015)。キエフ公国(9～13世紀)の全盛期のウラディミール1世は、ビザンツ帝国のバシレイオス2世(位976～1025)と交流を深め、その妹との結婚を機にギリシア正教を国教化(988)したことで、ビザンツ文化やローマ風の専制君主制が流入した。

1 イヴァン3世(位1462～1505)は最後のビザンツ皇帝コンスタンティノス11世の姪と結婚し、ビザンツ皇帝の後継者を自認して皇帝の称号ツァーリを採用した。首都モスクワは“第2のコンスタンティノーブル”(“第3のローマ”)としてギリシア正教の中心地として繁栄した。ハンザ同盟の在外商館として繁栄するノヴゴロド共和国を征服し、キプチャク＝ハン国からの自立(1480)も成し遂げた。

4 イヴァン4世(1533～84)は皇帝の称号ツァーリを正式に採用した(1547)。ギリシア正教の首長を兼任し中央集権体制を樹立する中で、貴族を弾圧してロシア専制政治(ツァーリズム)を確立する恐怖政治を展開した。対外政策としてモンゴル系のカザン＝ハン国(1445～1552)とアストラ＝ハン国(1466～1556)を併合、シベリア経営コサックの首領である2のイェルマークがトルコ系ウズベク族のシビル＝ハン国を征服しイヴァン4世に献上した(1582)。

5 ステンカ＝ラージンの乱(1670～71)は、ヴォルガ川中・下流域一帯に広がったコサックの首領を指導者とする農民反乱である。

問I 誤りは5。イスファハーンはイラン系王朝のプワイフ朝(932～1062)・サファヴィー朝(1501～1736)の都。

2 シャリーアはイスラーム法のこと。神の定めた法であり、行政法・身分法・家族法・商法など内容は多岐にわたる。法学者はウラマーと呼ばれ、シャリーアの解釈や執行に携わり、裁判官・教師などの職業に従事した。イスラーム社会ではシャリーアが唯一の法・規範であるが、オスマン帝国ではそれを補うものとしてスルタンの勅令や慣習法をカーヌーンとして成文化した。スレイマン1世は広大な領土を統治するために法律を整備し、“立法者(カーヌーニー)”と呼ばれた。

問J キリスト教宣教師やヨーロッパの使節として不適当なのは1のイブン＝バットゥータ。モロッコのタンジール出身の旅行家で、トゥグルク朝・元・マリ王国その他を訪問した。主著は『三大陸周遊記』。元代の使節・旅行家としては、次の表の人物を覚えておこう。

人名	来訪した都市	交通路	派遣の経緯	備考
プラノ = カルピニ (1182 頃～1252)	カラコルム	草原の道	教皇インノケンティウス 4 世が派遣	ワールシュタットの戦い (1241) が契機
ルブルック (1220 頃～93 頃)	カラコルム	草原の道	フランス王ルイ 9 世が派遣	マムルーク朝の挟撃を模索した
モンテ = コルヴィノ (1247～1328)	大都	海の道	教皇ニコラウス 4 世が派遣 大都でカトリックを布教 (1294～1328)	後任はマリニョーリ
マルコ = ポーロ (1254～1324)	大都	往路： 絹の道 復路： 海の道	ヴェネツィア出身 フビライ = ハンに仕える (1275～90) →泉州から海路帰国	『世界の記述』
イブン = バットウータ (1304～68/69 または 77)	大都	海の道	モロッコ出身の大旅行家	『三大陸周遊記』
ラッパン = バル = サウマー (ソーマ) (1225 ?～1294)	大都生まれ	絹の道	ネストウス派キリスト教徒 イェルサレム巡礼 (→到達できず) イル = ハン国の使節として教皇 (ニコラウス 4 世) や英・仏国王に謁見	

【3】

解答

- (1) ラシード = アッディーン (2) 千戸制 (3) バイバルス (4) ハイドウ
(5) 交鈔 (6) 陳朝 (7) ジャムチ (8) 泉州 (9) ルイ 9 世 (10) トウグルク朝

解説

(3)のバイバルスを記述するのはやや難だが、その他は基本問題。

- (1) ラシード = アッディーンはガザン = ハンに仕えたイラン人宰相。著書『集史』は、ペルシア語で記された。
(2) 千戸制とは全国の遊牧民を 95 の千戸集団に分け、千戸・百戸・十戸でそれぞれ長を置く制度で、モンゴル帝国の中央集権体制の基礎となった。
(3) フラグはアッバース朝を滅ぼし (1258)、イル = ハン国を建国するが、マムルーク朝全盛期のバイバルス (位 1260～77) にアイン = ジャールートの戦い (1260) で敗れた。第 7 回十字軍 (1270) の中心であったフランス王ルイ 9 世 (位 1226～70) はイスラーム側の中心であったマムルーク朝に対抗するため、ルブルックをモンゴル (カラコルム) へ派遣した。

- (4) モンケ＝ハンの次にトゥルイの子フビライ＝ハン（第5代；位1260～94）が即位すると、これに不満なオゴタイの孫ハイドゥはトゥルイ家の内紛を煽り、フビライの末弟アrikブケ（？～1266）をそそのかし、自らハイドゥの乱（1266～1301）を起こした。ハイドゥはチャガタイ＝ハン国やキプチャク＝ハン国と同盟して反抗し、この結果モンゴル帝国は分裂した。
- (5) 交鈔は金が発行した紙幣を元が受け継いだもの。紙幣は唐の商人たちが手形として始めた飛銭を起源とし、北宋の交子、南宋の会子、中華民国の蔣介石が共産党を打倒し世界恐慌から復興するために発行した法幣などが代表例である。
- (6) 陳朝大越国への遠征はモンゴル帝国時代および元の時代に3回行われ、陳朝はこれを退けた。モンゴル・元を退けたことはヴェトナムの国民意識を高め、民族文字の字喃や『大越史記』という歴史書が著された。
- (7) 駅伝制はモンゴル語でジャムチと呼ばれ、漢字では站赤と表記する。駅伝制を利用する者（官用旅行者）は牌符（証明書）を携帯した。
- (8) マルコ＝ポーロはフビライに仕え、帰国後『世界の記述（東方見聞録）』を著す。マルコ＝ポーロの元朝訪問に先立ち、父・叔父がモンゴル帝国を訪問しており、ヴェネツィア商人の彼らは、ブハラからイル＝ハン国の使節団に同行してモンゴル帝国を訪問し、宣教師派遣を求める皇帝の勅書を携えて69年に帰国した。1271年に彼らはマルコを伴い、“オアシスの道”を利用して、1275年に大都に到着した。その後マルコは、色目人の1人としてフビライに仕え、揚州の総督などを歴任した後、イル＝ハン国に嫁ぐ元朝の皇族に同伴して、1290年に泉州（ザイトン）を出航。途中イル＝ハン国のガザン＝ハンの宮廷に滞在後、1295年にヴェネツィアに帰国した。帰国後、ジェノヴァとの戦争で捕虜となった際に獄中で口述したものを、ルスティアーノが筆記したのが『世界の記述（東方見聞録）』である。
- (9) (3)の解説参照。
- (10) デリー＝スルタン朝時代（1206～1526）の各王朝については以下の通り。
- 1：奴隸王朝（トルコ系；1206～1290）
ゴール朝のマムルークのアイバクが建国したインド初の本格的イスラーム王朝。
 - 2：ハルジー朝（トルコ系；1290～1320）
アラール＝ウッディーン＝ハルジーの時代が全盛期で、モンゴルの侵入を防ぎ、インドの大半を支配した。
 - 3：トゥグルク朝（トルコ系；1320～1414）
ティムールの侵入で衰退した。
 - 4：サイイド朝（トルコ系；1414～1451）
ティムールの部将ヒズル＝ハンが建国した。
 - 5：ロディー朝（アフガン系；1451～1526）
ティムールの末裔を名乗るバーブルにパーニーパットの戦い（1526）で敗れた。バーブルはムガル帝国を建国した。ムガルはモンゴルの訛った表現である。
デリー＝スルタン朝の各王朝の年代を細かく覚える必要はない。それよりも特色で覚えておきたい。アフガン系のロディー朝以外はトルコ系、トゥグルク朝時代にイブン＝バットゥータが来訪したこと、事実上ティムールに滅ぼされたことなどは大きな特徴。イブン

= バットゥータが訪問した国は出題頻度が高いので要注意。他の訪問国として、ニジェール川流域のマリ王国も押さえておこう。

【4】

解答

問1 節度使（藩鎮） 問2 神宗 問3 殿試 問4 市易法 問5 燕雲十六州
問6 タングート 問7 女真 問8 高宗 問9 澶淵の盟 問10 靖康の変
問11 行中書省 問12 ジャムチ 問13 交鈔

解説

主に宋～元代の中国史を概観する問題である。一部見落としやすい語句も含まれているが、全体的には標準レベル。漢字の表記までミスなく正解できたか、今一度確認してほしい。

- 問1 宋代には、唐末～五代に節度使（藩鎮）が軍事力を背景に割拠して混乱をもたらしたことを踏まえ、文人官僚による統治（文治主義）が採られた。
- 問2・問4 北宋の第6代皇帝神宗は、異民族の侵入による軍事費の増加や官僚機構維持のための経費の増加による財政破綻を打開するため、王安石を登用して新法と呼ばれる富国強兵のための諸改革を行わせた。王安石は中小商人に低利貸し付けを行う市易法のほか、小農民へ穀物や資金を低利で貸し付ける青苗法などを実施したが、特権を抑えられた地主や大商人が保守派官僚と結んで反発したため、改革は挫折した。
- 問3 宋の科挙では、皇帝自らが試験官となる殿試を実施した。これにより官僚と皇帝の直接の結びつきが強まり、皇帝独裁体制が強化されていった。
- 問5・問6・問9 遼は五代の後晋建国を援助した見返りに、燕雲十六州を獲得した。宋は燕雲十六州の奪回をはかったが果たせず、1004年に澶淵の盟を結び、宋から遼へ歳賜を贈り、両国の国境を現状維持とすることを取り決めた。また、タングートが建国した西夏からも宋はたびたび圧迫を受け、多額の歳賜を支払うこととなった。
- 問7・問8・問10 女真族の金は遼の支配下から12世紀初頭に独立し、宋と同盟して遼を滅ぼし、次いで首都開封を落として徽宗・欽宗を北方へ連行した。この靖康の変により、北宋は滅亡した。徽宗の子高宗は江南に逃れ、臨安を首都として南宋を建国した。
- 問11 元は直轄地以外の地方統治に当たって、行中書省を置いて統治した。
- 問12 元代にはモンゴル語でジャムチと呼ばれる駅伝制が整備され、広大な領域内の交通が活発化したことから、東西文化の交流も盛んとなった。
- 問13 交鈔は金・元で用いられ、銀とともに広く流通したが、財政難に際して濫発され、混乱を招いた。

【5】

解答

問1 a 臨安 b 臣下 c 猛安 d 西夏 e オゴタイ f 北京
問2 (1) 泉州 (2) 朱熹 問3 クリルタイ 問4 (1) 大理 (2) フラグ
問5 (1) 色目人 (2) パスパ文字 (3) (ロ)

解説

南宋～元の歴史に関する問題。基本的事項に関する問いが中心なので、確実に正解したい。

- 問1 a 南宋の首都は臨安に置かれた。問題文に「杭州」が示されていることもヒントになっただろう。
- b 何を答えればよいか迷ったかもしれないが、「毎年多額の歳貢を送る」「屈辱的」という記述から正解を導きたい。
- c 金は漢民族に対しては州県制を用いて統治したが、女真族に対しては部族組織をもとにした軍事・行政制度である猛安・謀克を適用した。
- d チベット系の遊牧民タングートは、11世紀前半に黄河上流域に西夏を建てた。東西交通の要地を押さえて交易で繁栄したが、チンギス＝ハンによって滅ぼされた。
- e 金はモンゴル帝国の第2代皇帝オゴタイ＝ハンによって滅ぼされた。
- f フビライ＝ハンは即位後の1264年に、現在の北京に当たる大都に遷都し、中国支配の拠点とした。
- 問2 (1) 泉州は福建省東南の港市で、北宋の時代に市舶司が設置され、海上交易で繁栄した。マルコ＝ポーロにより「ザイトン」の名で西方に知られることとなった。
- (2) 南宋の朱熹は宋学を大成し、君臣関係の秩序を重視する大義名分論を主張したほか、四書を經典として重視した。
- 問3 クリルタイはモンゴル語で「集会」を意味し、ハンの選定のほか、遠征の決定や法令の発布など国家的重要事項を合議、決定した。
- 問4 (1) 雲南には10世紀以降、タイ人の大理が成立していたが、フビライによって13世紀半ばに滅ぼされた。
- (2) モンケ＝ハンの弟フラグはモンケ＝ハンの命を受けて西アジアに遠征し、13世紀半ばにアッバース朝を滅ぼした。イル＝ハン国はフラグがイラクを征服して建てた国である。
- 問5 (1) 中央アジア・西アジア出身の諸民族は色目人と呼ばれ、主に財務官僚として重用された。
- (2) チベットで成立した大乘仏教であるチベット仏教(ラマ教)の法王であるパスパは、チベット文字をもとにパスパ文字を作成した。フビライはパスパを国師とし、以後元朝ではチベット仏教を国家的に保護したが、これは財政難を招く一因ともなった。
- (3) 『西廂記』は元曲の代表的作品で、封建的な束縛に抗した男女の恋愛物語である。『水滸伝』は中国の代表的長編小説で、元代に原型が作られ、明代に完成した。『金瓶梅』は明末の風俗小説、『聊齋志異』は清代の短編怪異小説集である。

【6】

解答

- a 冒頓单于 b 拓跋 c 平城 d 北齐 e ウイグル f 耶律阿保機
g 後唐
- (1) 八王の乱 (2) 楽浪郡 (3) 鳩摩羅什 (4) 陶潜 (5) ア 寇謙之 イ 柔然
(6) 都護府 (7) 大祚荣

前3世紀末から後10世紀前半までの中国北方民族の歴史が題材となっている。リード文は専門的な内容となっているが、問われている用語自体はそれほど難しくはない。「拓跋」「鳩摩羅什」「大祚榮」などの間違いやすい漢字を正確に表記できるよう注意したい。

- a 前3世紀末、匈奴では冒頓単于（位前209～前174）が出てモンゴル高原を制覇し、最盛期を現出した。彼は東方の東胡や南方の月氏を討ったほか、前漢の高祖（劉邦；位前202～前195）と戦ってこれを屈服させた。
 - b・c 後4世紀前半、鮮卑の拓跋部（拓跋氏）は西晋を援助して匈奴と戦い、山西省北部に領土を獲得した。同世紀後半、拓跋部は一時崩壊の危機に瀕したが、拓跋珪（道武帝；位386～409）が北魏（386～534）を建国し、平城（現在の山西省大同市）に首都を定めた。
 - d 6世紀前半に北魏が東魏と西魏に分裂したのち、550年に東魏は北齊に、56年に西魏は北周に代わった。北魏の時代に出現した契丹は、東魏や北齊などに朝貢した。
 - e トルコ系のウイグルは、8世紀中頃に突厥に代わってモンゴル高原を支配した。ウイグルは契丹を服属させ、安史の乱（755～763）で唐を助けるなど強盛を誇ったが、9世紀半ばにキルギスに攻撃されて四散した。
 - f 契丹では、迭剌部の耶律阿保機が諸部族を統合し、916年に皇帝（位～926）を称した。こうして成立した国家は、遼という国名を用いた。
 - g 耶律阿保機の死後、契丹では次子の徳光（太宗；位926～947）が帝位を継承し、これと対立した兄の倍^{ばい}は中国の後唐に亡命した。936年、太宗は、石敬瑭による後晋の建国を援助して後唐を滅ぼし、その代償として燕雲十六州を獲得した。
- (1) 西晋では、建国者の司馬炎（位265～90）の死後、皇族間の内乱である八王之乱（290～306）が起こった。この混乱の中で五胡と総称される諸民族が勢力を拡大し、匈奴を中心とする永嘉の乱（311～16）によって西晋は滅亡した。
 - (2) 前漢の武帝（位前141～前87）は、前108年に朝鮮を征服して4郡を設置した。そのうちの楽浪郡は4世紀にわたって存続し、魏や西晋による朝鮮支配の拠点となったが、後313年、高句麗によって滅ぼされた。
 - (3) 五胡十六国の1つである前秦は384年に西域の龜茲（クチャ）を破った。その際に捕虜となった仏僧の鳩摩羅什（クマーラジーヴァ）は、のちに長安に入り、仏典の漢訳や仏教の布教活動に尽力した。
 - (4) 自然詩人として名高い陶潜（陶淵明）は、東晋に仕えたものの405年に官職を辞し、郷里で詩作に励んだ。彼は「帰去来辞」「桃花源記」などの作品を残した。
 - (5) ア 寇謙之は、五斗米道を改革して新天師道を開き、道教を大成した。彼は北魏の太武帝（位423～52）に仕え、道教の国教化を推進した。
- イ 北魏が太武帝の下で華北を統一した5世紀前半、モンゴル高原ではモンゴル系の柔然が勢力を拡大し、北魏としばしば交戦した。柔然は6世紀中頃にトルコ系の突厥によって滅ぼされた。
 - (6) 唐は、征服した周辺民族の統治に際し、各民族の首長に都督や刺史などの官職を与えて実質的な統治を委ねる間接支配を行った（羈縻政策）。唐は都督や刺史を統轄するための機関

として都護府を設置し、中央から派遣した官吏に彼らを監督させた。

- (7) 698年、中国東北地方では、大祚榮（位 698～719）が高句麗の遺民や靺鞨人を率いて渤海国を建国した。渤海国は唐に朝貢し、その諸制度や文化を積極的に取り入れて繁栄したが、契丹の耶律阿保機の遠征を受けて926年に滅亡した。